



R7 牧山 小だより

思いやりの心をもち、自ら学び自ら考え、心身ともに元気に仲良く活動できる牧山っ子を目指して！！



北九州市立牧山小学校
文責 校長 近藤幸子

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

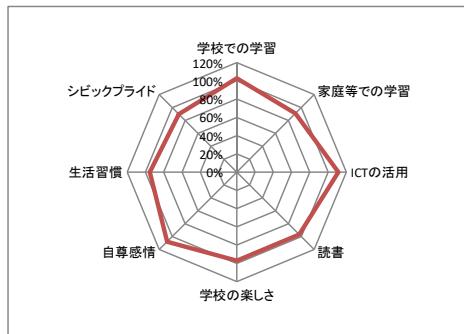
学校の現状を知りたいとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	全体的に平均正答率は、全国正答率を下回っている。特に「書くこと・読むこと」の領域は、全国平均正答率と比べて、平均正答率が低い。また、記述式の問い合わせに対して、無回答率が高くなっている。一方で、「知識及び技能」の領域の平均正答率は、全国平均正答率を上回っている。
算数	全体的に平均正答率は、全国正答率を下回っている。特に「数と計算」の領域は、全国平均正答率と比べて、平均正答率が低い。また、短答式の問い合わせに対して、全国平均正答率と比べて、平均正答率が低い。一方で、「変化と関係」の領域の平均正答率は、全国平均正答率を上回り、記述式の問い合わせに対しては、全国平均正答率と同程度である。
理科	全体的に平均正答率は、全国正答率を下回っている。特に「『生命』を柱とする領域」は、全国平均正答率と比べて、平均正答率が低い。また、記述式の問い合わせに対して、無回答率が高くなっている。一方で、「『粒子』を柱とする領域」の平均正答率は、全国平均正答率と同程度である。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」との問い合わせに対して全ての児童が肯定的に回答している。
・国語や算数の学習に対して苦手意識を感じている児童が40%を超えており、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己肯定感や自己有用感等に影響を与える可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。また、ICT機器を使った情報整理や発表のスライド作成などへの苦手意識も見られるので、ICT機器を活用した学習を進めることで、児童に学ぶ楽しさや学びの達成感を味わわせることにつながると考える。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・学校図書館の環境整備や読書活動の充実を図り、児童の知的好奇心を高め、学習意欲や思考力向上につなげる。
- ・ICT機器の効果的な活用とドリルアプリを活用した個別最適な学びを充実を図り、児童の主体的な学びを促す。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学校だより等、家庭への各種配布物を通して、本校の取組や児童の学習面や生活面の様子を保護者に伝え、家庭と協力・連携して、児童の学習習慣や生活習慣についての指導を継続的に行っていく。